平成１６年度第４回日本生物物理学会運営委員会議事録

日時：２００４年7月１０日（土）１３：００～１８：００

場所：早稲田大学１４号館８０１号室

出席者：石渡会長、美宅副会長、難波副会長、有坂、栗原、諏訪、永山、薬師、宇高、石島、金城、国岡、安永、若杉各運営委員、阿久津会誌編集委員長、川端支部長（北海道）、新田年会(H17)実行委員長、河合秘書

報告事項：
（１）生物科学学会連合報告
石渡会長より資料（報１）に基づき、生物科学学会連合の日本学術会議の改革（会議法の一部を改正する法律の概要：「人文科学、生命科学、理学及び工学」の３部制に改組、内閣府への移管など）について説明がなされた。

（２）平成１６年度年会準備状況
森島平成１６年度年会実行委員長が欠席のため、年会準備状況が若杉委員より報告された。資料（報２）として、本年７月８日に開催された年会第８回準備委員会の議事録が配られた。

2-1) 展示・広告からの収入（昨年実績 500 万円）や参加者数（昨年実績約 1500 名参加）が昨年並みであれば１００万円程度の余裕があることになるが、不確定要素が多く、収支状況は非常に不安定である。特に、広告・展示に関し、最善の努力をしているが極めて不調であり、前年１１０件のところが、現状ではまだ３件しか決まっていない。この主な理由としては、分子生物学会と開催日時、開催場所が近いことがあげられる。運営委員を含む６４名に広告展示依頼先リストを配布したので、会長はじめ各運営委員に対し協力して欲しいという強い要請があった。これに対し、「森島年会実行委員長自身が直接電話をするようにしてほしい」「展示・広告に関し、２、３週間に１度の割合でどの会社が OK したか運営委員にメール等により連絡してほしい」などの意見が出された。

2-2) 学会からの運営補助金が昨年は１５０万円入金されていたが、現在まだ

５０万円しか届いていない。そこで、もう１００万円の増額の要望が出された。これに対し、「１５０万円の内、１００万円は学会に返す必要があるお金である。」「会場費、運営費などの正確な見積もり、年会の運営体制の詳細を具体的に説明する必要がある」などの指摘があった。
2-3) HFSP (Human Frontier Science Program) レクチャーの講師が John L. Spudich (Univ. Texas-Houston Medical School)に決まったとの報告が石渡会長よりあった。

（３）平成１７年度年会準備状況
新田委員、金城委員より資料（報３）に基づき平成１７年度年会準備状況について説明された。支出は１０００万円位、収入は１４００万円位を見積もっている。ポスターは９００件（２日間)、シンポジウムは２０件、ランチョンセミナーは１０件を予定している。弁当の個数についてはもう少しつめる必要がある。
「経費負担型シンポジウムは、京都年会では多いが資金が多いところにテーマが片寄るなどデメリットも多い。京都年会での結果をみて方針を変えていく必要があるかもしれない。」「今後、ホームページにシンポジウムの採択の指針を載せておき、その基準に基づき決定したらどうか」という案が出された。

（４）平成１７、１８年度委員候補者補充選挙結果報告
石渡会長より資料（報４）に基づき、選挙結果の報告がなされた。資料（報４）の通り、２票以上獲得した人が候補者に決まった。

（５）平成１７、１８年度委員、平成１７年度次期会長選挙結果報告
石渡会長より、選挙結果報告（資料：報５）があった。選挙を行った結果、資料（報５）の２５名が委員に決まった。この中から運営委員、副会長が選ばれる。
美宅成樹氏が次期会長に決まった。

（６）会計監査報告
石渡会長より、会計監査報告（資料：報６）に関し報告があった。

（７）東北、中部支部報告
東北支部の平成１５年、１６年決算報告、及び、名古屋支部の総会、会計報告が石渡会長より資料（報７）に基づきなされた。

（８）学会補助金の交付決定について
早稲田大学では学会事務局があると申請することで５万円もらうことができる。今回、石渡会長が申請し５万円の収入を得た。

（９）学会事務センターの不祥事について
有坂委員より資料（報９）に基づき、学会事務センターの不祥事について説明された。学会事務センターが約１６億円の学会からの預かり金を無断流用していたことが明らかになった。再建計画などの資料をもとに議論した結果、学会としては大幅な変更をせず、今後の様子を見ていくことに決まった。

（１０）その他
新しい学会のホームページは http://www.biophys.jp/index-newer.html

議題：
（１）平成１７年度予算案
有坂委員より資料（議１）に基づき、平成１７年度収支予算案について説明された。繰越金が減ってきており、このまま減少が続くと平成１８年度になると繰越金が０円になってしまう。この原因として、年会の収入及び広告費の減少があげられる。これらを解決する案として以下の２つがあがった。
1-1) 会費を値上げする。会費を２千円上げて１万円にする。E-journal の収支も予算案に含め、E-journal という新たなサービスを加えるという理由で値上げする。
1-2) 賛助会員を増やす。値上げするのではなく、口数を増やしてもらう。賛助会員になるメリットを増やす努力が必要との見解で一致した。

（２）2005 年 IUPAB について
2005 年 International Biophysics Congress の symposium title, speaker 氏名のリスト及び国別比較の資料（議２）が配られ、永山委員より説明があった。

（３）2006 年第５回東アジア生物物理会議(EABS)について
永山委員より 2006 年第５回 EABS について説明された。E-journal の editor に入ってくれた方は EABS の理事の方であり、EABS は非常に強いパイプである。E-journal の運営には彼等の協力が是非とも必要であり、EABS を是非成功させたいとの話があった。

（４）2006 年第５回 EABS と生物物理学会年会共同開催の準備等について
2006 年第５回 EABS と年会共同開催の準備等について、難波副会長より資料（議４）に基づき概算見積もりなどの説明があった。沖縄コンベンションセンターで開催される。沖縄の場合、外国人が１００人以上参加すると会場費が５０％割引きになる制度があり、これにより３００万円以上節約できる可能性がある。概算費用は２千万位である。複数のコンベンションサービス会社および旅行会社から見積もりを取っており、今後さらに検討するが、早めに決める必要がある。開催期間は４日間必要である。日程は、１０月３１日（火）から１１月３日（金）までを開催日の第一候補、１１月７日（火）から１０日（金）までを第二候補とすることに決まった（その後、これらの日程は既に予約済みであることが判明。持ち回り委員会で、11 月 12 日～16 日を予約することに決定）。参加登録費は一般会員２万円とする。予稿集はすべて英語とし、Biophysics に掲載する。難波副会長を実行委員長とすることに決まった。

（５）E-journal (Biophysics)について
美宅副会長より議５に基づき E-journal (Biophysics)について説明があった。学会誌１０月号には論文の募集広告を出す。ホームページ上でも論文の募集広告を行う。カテゴリーは、Notes (Technical Notes), Regular Article, Review の３本立てとする。動画を目玉に据える。また、英語で企画し、英語でインタビューする個人紹介のビデオ記事も作成する。

（６）その他
若手奨励賞規定、名誉会員推薦規定など、生物物理学会会則の改正について資

料が配られ説明がなされた。京都年会での総会で正式に決定できるように検討していくことに決まった。

連絡事項：
次回の第５回運営委員会は、１０月９日（土）（第１候補)、１６日（土）（第２候補)、２３日（土）（第３候補）または３０日（土）（第４候補）のいずれかに開催予定である。（その後、次回運営委員会は 10 月 23 日 1pm より早稲田大学 120-1 号館 3 階 301 号室で開催することに決定）

以上（書記：若杉　桂輔）